

令和7年度 延岡市立港小学校 学校評価書

	評価項目	学校の自己評価		学校関係者評価	
		評定	学校の自己評価コメント	評定	学校評価関係者のコメント
確かな学力の定着	わかる授業・考える授業の推進が図られている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用や主体的・対話的で深い学びを促進する授業改善に加え、児童一人一人の習熟度に応じたきめ細やかな指導が重要性である。 掲示物等の学習環境の整備を行い、教育に関する情報提供を充実させる必要がある。 表現力の育成につながるよう、地域メディアへの作品投稿や、読書活動をより推進する必要がある。 授業力向上を組織的に図っていくために、校外研修の受講奨励や研修内容の還元を行っていくことにも注力していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校ならではのきめ細やかな個別指導や、教職員が共通の目標に向かって尽力している。その一方、教員の熱意に対して生徒の反応が薄く、学習意欲に課題がある。 校内の掲示物など学習環境が整っていたり、教職員は状況に応じて柔軟な対応ができていたり、学校全体の雰囲気が良い。
	基本的な学習姿勢の向上が図られている。				
	学習環境の整備充実が図られている。				
豊かな心の育成	思いやりの心が育成されている。	B	<ul style="list-style-type: none"> リフレーミング掲示板などを通じて、児童の人権意識の向上や自己肯定感の育成などに努めてきたが、さらなる心の教育の充実を図っていく。 外部講師を招いたキャリア教育を行ったり、児童が主体的に動く委員会活動を計画したりして、児童の自律性を育む取組を推進することができた。 校内の環境整備については、教職員の尽力によって清潔で明るい学習環境が保たれた。 今後さらに、「礼儀」や「思いやり」を基盤とした学校づくりを推進し、ポジティブなニュースを共有し合う温かな校風を目指していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で取り組む「あいさつ指導」や細やかな掲示の工夫が、子供たちの正直で積極的な姿勢を育むことにつながっている。 学年を超えた助け合いの精神や、友人同士の良好な関係性が、児童の日々の言動に表れている。 校長先生を中心とした学校の組織的な努力が、児童一人ひとりの発言力や思いやりの心を支える基盤となっている。
	自己肯定感の醸成が図られている。				
	明るい環境づくりが行われている。				
健康な体づくり	体づくりの推進が図られている。	C	<ul style="list-style-type: none"> 体育の専門指導員による授業や行事を通じて、児童が運動に親しみ体力を高める様子がみられた。 睡眠不足やメディアとの接し方といった家庭での生活リズムの改善が今後の重要な課題である。 給食指導や調理実習などの食に関する教育は積極的に行うことができたが、今後、栄養面の知識や食事のマナーの習得に向けた継続的な指導が重要である。 教員と養護教諭が連携し、児童が主体的かつ健康的に成長できる環境づくりを目指していく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校側は、登山やマラソン大会などの行事を通じて積極的に児童の健康な体づくりを行っている。既存の山小屋施設のさらなる活用も期待したい。 栄養士と教員の連携により食育の成果が上がっている一方で、児童の健康状態には個人差があるため、学校の努力だけでなく各家庭での協力が不可欠である。 教育現場と家庭が丸となって、子供の規則正しい登下校の習慣化や、児童の健康な体づくりを支えていくことが重要である。
	生活リズムの確立が図られている。				
	食育指導の推進が図られている。				
地域づくりにも推進	コミュニティスクールの推進が図られている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校創立150周年記念事業やコミュニティ・スクールとしての活動とおして、学校と地域社会の連携を深めることができた。 記念行事や地域の文化体験を通じて、子供たちが郷土への誇りを育み、住民と学校間に相互協力の意識が高まった。 一方で、点在する個別の取組をより体系的な学習カリキュラムへと統合し、キャリア教育の充実を図っていききたい。 地域との関わりを深めながらも、授業の進捗を妨げないよう、内外の活動のバランスを考慮する必要性もある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 長年にわたり卒業生や近隣住民が学校行事に積極的に関わっており、少子高齢化の中でもコミュニティ・スクールとしての機能が維持されている。 授業に地元の歴史を取り入れたり、放課後に卒業生が来校したりするなど、日常的な交流が教育への深い理解に繋がっている。 教員と地域住民が相互に働きかけ合うことで、学校と地域の強い絆が育まれている現状がある。 地域住民としては、地域社会と学校間の密接な協力体制が築かれている良好な連携関係を今後も継続させていくことを期待している。
	ふるさと教育の推進が図られている。				
安心安全な学校づくり	防災教育の充実が図られている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練における外部専門家との連携や、児童の登下校の見守りにおける地域住民との連携による取組は効果的であった。今後、地震に備えた新たな避難経路の確保も考えていく必要がある。 人権教育やいじめ防止への取組を強化し、児童が悩みを発信しやすい環境づくりを推進することが重要である。 特別支援教育における教職員間の情報共有や、全校的なユニバーサルデザインの活用ができ、その面での教育活動は充実していた。 今後さらに、子どもたちの安心・安全を最優先に考えた、より組織的な学校運営を目指していく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員の熱心な指導姿勢を高く評価したいが、児童のマナーや生活態度が他校に比べて劣っているのではないかと不安もある。 防災教育に関しては、学校の訓練だけでなく家庭での教育が不可欠であり、学校外との連携も重要である。 教育の成果は学校のみならず、家庭との共同作業によって得られるものである。
	いじめのない学校づくりが進められている。				
	特別支援教育の充実が図られている。				
	リスクマネジメントとクライシスマネジメントが図られている。				
	働きやすい職場づくりが進められている。				

評定…A：よくできている、B：できている・まあまあよい、C：あまりできていない・あまりよくない、D：できていない・よくない